



今月は検査科が担当いたします！

腫瘍マーカー検査とは？



「腫瘍マーカー」とは、がんが進行する際に産生される特徴的な物質のことをさします。がんの進行の度合いに応じて血液中に特徴的な物質が増えるため、「腫瘍マーカー」と呼ばれ、がんの指標として使うことができます。腫瘍マーカーは体内にがんがなくてもその値が上昇することがあります。また、がんがあっても上昇しない場合もありますので完全に否定できるとも限りません。しかし、がん発見には必要とされる検査のひとつである事には間違ひありません。

当院でも診療以外に健診のオプションとして「腫瘍マーカー検査」をご用意しています。

現在、「PSA」「CA-125とSCC(の組み合わせ)」「CEA」の3パターンをご用意し、それぞれの特徴を簡単にご説明したいと思います。

① 「PSA」は「前立腺特異抗原(prostate-specific antigen)」の略で、前立腺の上皮細胞から分泌されるタンパクです。文字通り前立腺に特異的にみられ、前立腺肥大症などでも高値を示しますが、前立腺での感度が高いことから『前立腺がん』の発見に有用性が高くなります。そのため早期発見にも繋がる可能性もあります。日本でも近年は増加傾向を指摘され、男性が注目すべき腫瘍マーカーといえるのではないかでしょうか？

② 「CA-125」は女性特有のがんの中で特に『卵巣がん』に対し陽性になる感度が高く、そのリスクの発見には有用とされています。また、『子宮頸がん』や『子宮体がん』にも反応するマーカーで女性が注目すべきものと考えます。「SCC」は扁平上皮がんで陽性を示すことが多く子宮頸がんの約90%が扁平上皮がんである事を考えるとCA-125では腺がんによるもの、SCCでは扁平上皮がんによるものとの区別にも繋げます。また、SCCは肺や食道などの扁平上皮組織のがん化も疑うことが出来、それらの精密検査へと繋げる事も考えていくものと考えます。

③ 「CEA」は主に『大腸がん』『胃がん』などの消化器系の腫瘍を中心で用いられます。他にも『肺がん』『乳がん』『胆嚢がん』『膵がん』など様々な悪性疾患で上昇するため、医療ではよく検査に用いる腫瘍マーカーになります。臓器特異性という面では低いですが、CEAが高値のときは体のどこかにがんが潜んでる可能性が高いとも判断が出来ます。症状に合わせて他の血液検査や画像検査などを消化器系を中心に、肺や婦人科などの精密検査をお勧めします。

以上、それぞれのポイントについてお話しいたしました。
更にお話を加えたいと思いますので次のページもご覧下さい。



病院公式SNSも
ご登録ください😊



今月のひとさら

春の食材～新玉ねぎ～

北海道産の新玉ねぎは5月頃までが旬です。

玉ねぎに含まれる「アリシン」は血液を
サラサラにする効果があります。

今回は生でさっぱり食べられるマリネをご紹介！

- 材料（2人分）
- ・新玉ねぎ…1個
 - ・長葱…1/4本
 - ・鮭…2切れ
 - ・塩・片栗粉・油…適量
 - ・酢…大さじ2
 - ・砂糖…大さじ1.5
 - ・油…大さじ1

作り方

- ①新玉ねぎは皮を剥き、薄くスライスする。
(水にさらさないで！
ビタミンが逃げます)
 - ②鮭は塩を振り、片栗粉をまぶして揚げる。
 - ③酢・砂糖・油を混ぜた調味液に新玉ねぎと鮭を入れ、冷蔵庫で馴染ませたら完成！
- ★粒コショウを乗せていただきました！





腫瘍マーカー検査の意味合い

「腫瘍マーカー」についてもう少し詳しくお話ししましょう。

もともと腫瘍マーカーとは、すでにがんを患っている患者さんの経過を見ていくために使用されている検査です。がんには多くの種類があり、それぞれ特徴的な物質(たんぱく質や酵素など)が産生されます。腫瘍マーカーは「がんがあるかどうか」を見つける検査ではなく、「がんの進行度」をみるための検査と考えます。現在多くの腫瘍マーカーがありますが、PSAを除くとがんの早期発見には難しいものばかりです。また、先ほども触れましたが、「異常値だからといって、必ずがんが存在するわけではない」「正常値だからといって、必ずがんが存在しないわけでもない」「良性疾患でも異常値を示すことがある」「喫煙などの生活習慣も影響する場合がある(喫煙の場合、特にCEA)」など結果への判断には注意が必要です。しかし、こういう見方も出来ます。がんを患っている患者の多くにそのがん特有の物質が検出されます。つまり、検査陽性者はやはりがんの可能性も秘めている事にもなります。そこで、検査の意義を高めるために項目の組み合わせを行って、より可能性を高めていきます。これを「コンビネーション・アッセイ」と言います。あまり組み合わせが多いと余計判断が難しくなる場合もありますので、疑うがんに対して2~3項目程度で組み合わせます。複数の腫瘍マーカーを組み合わせることによってがん発見の感度を高める利点が生まれます。しかし、逆に偽陽性も増えることになり特異度が低下していきます。複雑さは増しますが、がん発見の手掛かりとなり更に画像診断などの他の検査に導けることで、よりがん発見への近道になればと我々は優先的な判断をしていきます。参考までにそれぞれのがんに対して検査を行う可能性がある項目例を示してみました。



簡単ではありますが、「腫瘍マーカー」のお話をさせて頂きました。健診や診療等で「腫瘍マーカー」を検査される事によって、がん発見の「マーカー」としてお役に立てる事を心から願っております。

文責 検査科 臨床検査技師 金田 晃



【お知らせ】5月より皮膚科外来の診療受付時間が16:00までに変更となります。
当院公式LINEでも皮膚科診療案内も配信しておりますので、ぜひお友達追加をお願いします!

2024年度 第1回「公開医療講座」開催日が決定しました！！

- ◆ テーマ 『新生活スタート応援 腸を元気に免疫力UP😊』
- ◆ 講師 : 道南ロイヤル病院 病院長 松井 郁一 / 栄養科 栄養士 杉村 瑠都
- ◆ 日時 : 2024年6月6日(木) 15:00~16:00
- ◆ 会場 : 道南ロイヤル病院 3階大会議室
- ◆ 定員 : 20名(要予約) *定員になり次第締め切らせていただきます。
- ◆ 参加料 : 無料

[予約・お問合せ]地域医療連携室 ☎84-6640(直)